

## ～運命の出会い～

最愛の息子との出逢いは、8年半前、ある日、突然やってきました。結婚から6年半、不妊、不育治療についやした日々と二度の流産、でも、その日々があり息子と巡り合う事が出来ました。

流産の悲しみの中「里親制度」を知り、先輩里親さんの、子どもに対する思いの深さに触れ、私達も「そんな親子になりたい」と想いを膨らませ、里親登録しました。

ある夜遅く、児童センターから電話が入りました。「生まれて間もない男の子で、名前も付いていません」と、夢のような話でした。

まだ会ってもいない、写真すら見ていないのに、主人は「我が子は、この子しかいない。迷う必要はない」と言いました。

本当に不思議な感覚でした。

初めての対面の日、暖かそうな、真っ白なベビー服にくるまれた赤ちゃんがそこにいました。それが、息子でした。赤ちゃんをこの手に抱き、ただただ涙が溢れ「こんにちは、今日から私があなたのママです。よろしくお願いします」と声を掛けるのが精一杯でした。私達家族の「幸せ」の始まりでした。

あの小さかった赤ちゃんも、今では、小学三年生になりました。

「真実告知」も行っています。血の繋がりが無い事を「触れてはいけない事」にしたくないと言う思いから、まだ何も分からない年齢から、日常の会話の中で伝えてきました。

乳児院さんが近くにありましたので、前を通る時は「ここでパパとママと家族になったね」とか、お風呂で体を洗いながら「こんなに丈夫に産んでもらえて、産んでくれた人に感謝だね」といった感じです。

4歳の時「ママは病気で体が弱いから産んであげられなかったんだよ」と話しました。「ママが良かった」と言って、ひどく泣きました。「ママも産んであげたかったんだよ、でも、そのお陰で、家族になれたんだよ」と、良い事だという事を伝えました。

暫く「ママが良かった」が続きました。最近では少し変わり、「家族になれてよかったね」とハグする事が続いています。

ある日、息子が「僕は、やっぱり他の人に産んでもらえてよかった」と言うのです。唐突な言葉に、こちらの方が驚いてしまい「どうして？」と聞くと「他の人に産んでもらえなかったら、パパとママと家族になれなかったから、他の人に産んでもらえて良かった」とたどたどしく言うのです。小さな頭と心で一生懸命考えているんだなあ…と胸がいっぱいになりました。

今年、私の、母が亡くなり、改めて親子の意味を考える事になりました。息子は告別式の日「ばば、優しくしてくれて有難う。大好きだよね」と大粒の涙を流しました。これが私達家族の絆だと感じました。

私にとって子育てはラクなことではありませんでした。息子が4歳の時に私が病気になり、満足に子育てが出来ず、子育てにつまづく事も沢山あり、毎日悩む日々も続きました。

でも、息子は、周囲の方たちに恵まれ、優しく私の体を気遣ってくれる、パパそっくりな男の子に育ってくれています。

私のお腹に授かって、この手に授かって、同じ我が子だという事を息子が教えてくれました。息子の成長につれ、悩む事も、親子の意味を考える事も増えるかもしれません。

立派なことの言える親でもないけれど、息子の成長も失敗も「見守る」ことのできる親でありたいと思っています。

これからも授かった尊い命を大切に、私達なりの家族の幸せ、家族の形を探して生きていきたいと思う日々です。

息子へ

パパとママを、あなたの親にしてくれて  
ありがとう